

事業再評価シート(案)

事業名	交通円滑化事業		
箇所名	宮崎東環状道路 一般国道219号 広瀬バイパス	市町村名	宮崎市

(上段は前回、下段は今回)

実施方法	補助 交付金 県単			
	採択年度	再評価年度	完了予定年度	
事業期間	H15	H26	H31	
		H29	H31	
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率(%)	
			事業費	用地
	7,200	5,803	80.6	92.4
7,970	6,603	82.8	96.4	
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)	対応方針原案
	社会経済情勢の変化		1.8	継続
	社会経済情勢の変化		1.7	継続

全体計画

宮崎東環状道路は、宮崎ICから西都ICに至る延長約30kmの地域高規格道路であり、交通拠点である宮崎港や宮崎空港とを結ぶほか、宮崎都市圏中心部の渋滞緩和にも大きく寄与する環状道路としての機能を有しており、国道219号広瀬バイパスはその一部を担う極めて重要な道路である。

事業概要

全体延長 L = 3.2 km
 道路幅員 W = 7.0 m (8.5) m (暫定2車線)
 主要構造物
 橋梁 N = 4 橋
 ボックスカルバート
 N = 24 基

事業目的

対象事業の目的、必要性
 ・西都ICと物流拠点である宮崎港、宮崎空港を結び、円滑な物流ネットワークの構築を図る。
 ・国道219号の渋滞の緩和、交通の分散化を図る。

事業を継続する必要性
 ・バイパス区間であり、整備効果を発現するためには工区の完了が不可欠であることから、事業継続が必要である。

事業の進捗状況

現在の事業進捗

- ・事業進捗率は平成28年度末で82.8%（事業費ベース）である。
- ・用地取得進捗率は平成29年9月末現在で96.4%（面積ベース）である。
- ・主要構造物の進捗としては、橋梁4橋、水路ボックスカルバート14基が完了し、道路ボックスカルバート10基のうち9基の施工が完了している。
- ・今年度は、道路ボックスカルバート1基の施工を予定している。

整備効果の発現状況

- ・工区内にアクセスする道路がなく、供用開始区間がないことから、整備効果の発現はない。

今後の事業進捗の見込み

- ・用地取得を完了させ、残るボックスカルバート1基、土工、法面工、舗装工、交通安全施設工等を順次施工することとしており、平成31年度に暫定2車線にて完成する予定である。

社会情勢等の変化

事業を取り巻く社会情勢等の変化

- ・平成28年4月に東九州自動車道が宮崎市から北九州市までが高速道路で繋がった。
- ・技能労働者への適切な賃金水準の確保のため、平成26年度と比較して公共事業設計の労務単価が約15%上昇した。

災害等の発生状況

- ・災害発生履歴なし

環境保全に対する取り組み

- ・建設発生土の有効活用や現場で発生する木材（伐採木、根株など）をチップ化し、切土法面緑化の主材料として利用する工法を実施

事業効果の分析

費用対効果

$$B/C = 1.7$$

事業を継続することの事業効果分析

- ・高速道路、港湾、空港が一体となった物流ネットワークが構築され、力強い経済の浮揚を支援する。
- ・渋滞を緩和し、都市近郊における円滑な移動に資することで、定住自立を図る地域の発展を支援する。

コスト縮減

コスト縮減の取り組み

- ・発生する建設発生土を公共事業間で再利用することとしており、今後も引き続き、他事業と連携を図りながら、コスト縮減に努めていく。

代替案の可能性

国道10号と国道219号春田バイパスを最短距離で結ぶ規格の高い道路であり、代替案の可能性はない。

対応方針

継 続

位置図(管内図)

